

## 12. 慢性副鼻腔炎に対するブロンカスマ・ベルナによるエアゾル療法（第2報）

井上庸夫、 島田 均、 古内一郎(獨協医大耳鼻科)  
木谷孔保(獨協医大臨床共同研究室)

反復性の上気道感染症や慢性副鼻腔炎に対して、Broncasma Berna が、皮下注による免疫療法剤として使用されており、その有用性が報告されている。

前回われわれは、慢性副鼻腔炎に対して、超音波Nebulizer を用い、Broncasma Berna を噴霧した結果、Fibronectin や T-cell, B-cell, 又きわめて少数例に白血球分画で単球の上昇をみたことなどから、Broncasma のNebulizer 療法が皮下注射同様に有効であるという印象を受けた。

今回はさらに症例を増やし、前回同様に慢性副鼻腔炎に対して、超音波Nebulizer を用いBroncasma を噴霧し、その効果について検討した。さらに、投与前後の宿主の感染防御能について検索したので、併せてその成績についても報告する。

対象は21歳から49歳の慢性副鼻腔炎患者で鼻茸がない男性10例、女性6例、計16例で行った。尚急性発熱性疾患や腎炎のある患者、その他主治医が不相当と認める者は除外した。

投与方法は超音波Nebulizer (オムロンNE-U10)を用い、流量は1分間2mlとし、Broncasma の用法用量は原液1ml (1A)を生理的食塩水に溶解し12mlに稀釈し、1回6ml (1/2A)を上記流量で3分間噴霧投与した。

臨床検査項目は、Broncasma 投与前後に、皮内テスト、鼻汁中細菌培養、鼻汁スメア、副鼻腔X線検査、血液一般、及び生化学検査、尿検査、T-cell, B-cell の百分率、Helper T-cell, Suppressor T-cell, Fibronectin 等について施行した。

成績は、他覚的所見（前鼻鏡検査）で50%改善、自覚症状においては16例中著明改善例2例を含む69%に中等度以上の改善がみられた。X線検査所見では、上顎洞に関してのみ中等度から軽度改善が16例中6例に認められたが他は不変だった。

臨床検査成績は、Nebulizer 投与前後のT-cell, B-cell百分率、Fibronectin を測定した結果、T-cell の上昇ならびにFibronectin では平均0.093mg/mlから0.136mg/mlへと有意な上昇が認められた。

鼻汁中の細菌に関しては、投与前後の変化はほとんど認められなかった。

鼻汁細胞診においてもほとんど変化は認められなかった。

安全性の検討は、16例の経過観察中において、副作用の発現は一例も認められなかった。又、投与後の血液生化学的検査上、肝腎機能に異常なく、血清蛋白分画、尿検査においても変化は認められなかった。

免疫グロブリンでは、投与前後とも、特に変化した例はなかった。

この治験成績をまとめると、①Broncasma Berna のNebulizer の治療効果は、自覚所見で69%、他覚所見では50%の改善率だった。

②臨床検査上免疫学的にはそれほど著明な変化は得られなかったが、Tcell とFibronectin にはBroncasma 使用前後に、有意の差が認められた。

③副作用や臨床検査上の異常値は認められなかった。

これらの結果より、前回同様、Broncasma のNebulizer 療法が皮下注射同様に有効であるという印象を受けた。